



特集

つどいのあゆみ

通信 No.16



題字:玉堤つどいの家 平野道男さん イラスト:東北沢つどいの家 杉山明日香さん

1981年世田谷区肢体不自由児者父母の会運営の通所訓練施設「東北沢つどいの家」が開所して40年、1992年に第二のつどいの家として「玉堤つどいの家」が開所して、今年30周年を迎えます。

そして今夏、NPO 法人つどいを設立してから20周年を迎えようとしています。法人の設立前後にも、自立体験室・短期入所・緊急利用など地域福祉の拠点としての「なかまっち」、生活の場である「グループホームきぬた」、相談支援の「なかまっち相談室」、地域障害者相談支援センター「ぼーとたまがわ」の運営をはじめました。

それぞれの事業所がつながり、地域の障害者福祉に貢献しています。わたしたち法人つどいをささえてくださっているみなさんのお力添えがあってこそその歩みでした。その感謝の気持ちを込めて、さらなる発展へ繋げるべく本誌をお送りします。

✿ 法人設立20周年記念 ✿

法人をささえる、つどい会員インタビュー

Q&A 1. 会員になられたきっかけは? 2. 会員になって良かった点は? 3. つどいに期待するものは?
ご回答(五十音順)

川口陽子さま(玉堤つどいの家 保護者)

1. 20年前、娘が玉堤つどいの家で社会人生活をスタートしました。そこですすめられて世田谷区肢体不自由児(者)父母の会に入会しました。その流れで、NPO法人つどいの会員になりました。
2. 「つどい通信」や総会の資料のおかげで、各施設の様子、職員さんの声を知ることができています。ご苦労、ご努力に感謝です。
3. 法人の和と連携が(当事者の)子供たち、利用者の幸せにつながっていると思っています。大変な状況が続きますが、頑張っていきたいと思います。

下野輝美さま(なかまっちOB)

1. 母が会員でしたが、亡くなった後にすすめられて入会しました。
2. よく分かりません。
3. 65歳をこえ介護保険に移行したことで、サービスが減って生活がしづらくなっていました。そうしたことを改善する取り組みや、ずっと安心して生活できるグループホームを作ってほしいです。

深川桂子さま(肢体不自由児者父母の会)

1. 肢体不自由児者父母の会の会員で、光明養護学校時代から東北沢つどいの家をお手伝いしていました。法人の会員(になるの)は特に問題なく自然の流れでした。
2. 皆様の努力でどんどん活動が活発になり、「東北沢つどいの家」「玉堤つどいの家」「自立体験ホームなかまっち」「グループホームきぬた」等活動範囲を広めています。参加・活動できたことは良い経験でした。
3. これからも、今以上にいろいろな方面に参加し、地域の中で活動を広げてほしいです。期待しています。



